

活動番号 ■ 旧街道ウォーク 3 1 4

テーマ ■ 日光御成街道ウォークその 7（和戸～幸手宿・栗橋宿）

日 時 ■ 2006 年 1 1 月 2 3 日（木） 1 1 時～ 1 7 時

集 合 ■ 東武伊勢崎線和戸駅改札口 午前 1 1 時集合

コース ■ 和戸駅～富士塚～下高野の一里塚～八幡神社～南側用水～日光道中との合流点～志手橋～神明神社～朝萬旅館～満福寺～幸宮神社～幸手宿本陣跡～聖福寺～雷電神社～正福寺～幸手の一里塚跡～幸手城址～幸手駅～（電車移動）～栗橋駅～静御前の墓～関所番士屋敷～八坂神社～関所跡～栗橋宿脇本陣～吉田家水塚～水神社～常薫寺～炮烙地蔵～浄信寺～深廣寺～栗橋駅（幸手宿まで約 4 k m、栗橋宿内 3 k m）

その他 ■ 雨天の場合も実施しますので集合下さい。ただし街道歩きは行わず、集合後、電車で移動し古河歴史博物館、篆刻美術館と予約している栗橋宿の水塚見学など室内見学を中心としたコースに変更します。なおこの場合、街道歩きについては、1 2 月 2 3 日（土・祝）に順延します。

連絡先 ■ 大竹 亮（旧街道ウォーク代表、N P O 全国街道交流会議理事）

E-mail :otkr@zd6.so-net.ne.jp

古里実 hurusato.minoru@nifty.com

ホームページ ■ <http://homepage2.nifty.com/econet-urawa/kyuukaidou/index.html>

【今回の見どころ】下高野の一里塚から幸手の一里塚跡まで歩きます。江戸時代、幸手宿は日光御成道と日光道中の合流点で交通の要所でした。その面影を見つけみてください。

また、オプション企画として、利根川スーパー堤防の計画（今年 6 月にパブリックコメント実施：資料当日配布先着 20 名）で街が様変わりすることが想定される栗橋宿をご覧ください。今も水塚が残る吉田家の見学と御当主のお話を伺う予定ですので、奮ってご参加ください。

【解説】

「日光御成街道」は、江戸日本橋を起点に中山道の本郷追分から岩槻城下をへて日光街道の幸手追分に至る 5 宿 1 2 里（約 4 7 キロ）の街道である。歴代徳川将軍が家康を祀った日光東照宮への参詣に利用したことからその名があり、経由地をとって「岩槻街道」とも言う。

途中、岩淵宿、川口宿、鳩ヶ谷宿、大門宿、岩槻宿の 5 宿が設けられたが、岩槻は親藩の城下町でもあった。道筋は中世鎌倉街道・中道（鎌倉と古河を結ぶ重要路線）が原型となっている。将軍の鷹狩りに用いられた中原街道（東海道の別路）や東金御成街道などと同様に、本来の街道筋を短絡する経路を採り、諸大名の参勤交代の通行が禁じられた別格扱いの「御成道」である。

地図番号と解説 ■

55 国納橋（備前堀川）

56 和戸駅（東武伊勢崎線）

57 和戸橋（大落古利根川）

58 富士塚：和戸宿の富士講の人たちによって、明治 38 年に築造された。

- 59下高野の一里塚：約10m四方の規模で、東塚のみが現存する。
- 60八幡神社：敷地内に道標を兼ねた庚申塔がある。
- 61天神社
- 62福正院（新義真言宗智山派）
- 63南側用水：葛西用水の支流のひとつ。葛西用水は、1660(万治3)年郡代伊奈忠克により開削された。
- 64中郷用水
- 65日光道中との合流点：石井酒造り前、幸手市南二丁目6番地。石像馬頭観音像、石像庚申塔が見られる。
- 66志手橋（志手川、倉松川）
- 67神明神社：宝暦5年（1755）に伊勢皇太神宮を勧請して建立された神社。神明神社のあたりは宿の中心部で高札場が立っていた場所だったといわれる。
- 68朝萬旅館：江戸時代も旅籠であった旅館。裏門は江戸時代を偲ぶことができるものである。
- 69満福寺：戦国期に幸手城主の一色氏が建立した祈願所。
- 70幸宮神社：幸手宿の総鎮守で現在の本殿は文久3（1863）年に再建されたもので総檜造り。朱塗りの塀に能舞台を持ち、小さいながらも風格を感じさせる。
- 71幸手宿本陣跡：中1丁目信号手前鰻屋の前に本陣知久家の案内板がある。初代帯刀（たてわき）は、長野県伊奈郡の豪族で、同郷の関東郡代伊奈熊蔵に幸手宿の開拓を命じられて来て以来、知久家が本陣、問屋、名主の三役を兼ねた。明治9年の明治天皇行幸の際には宿泊所となった。
- 72聖福寺（浄土宗）：阿弥陀如来が本尊で、運慶作と伝承がある観音像が安置されているお寺。将軍が休息されたといわれる部屋や左甚五郎作とされる彫刻が残っている。勅使門と言われている菊の紋入り山門が現存している。
- 73雷電神社：昔、田の中に雷電の神体が忽然と現れその場所に社を建ててあがめたのが由来。幸手の前の名前「田宮町」は、田の中にこの社だけあったので田宮といったのが起こりとなった。今でもすぐ隣に「田宮自治会館」がある。ご神体は宝持寺に移されている。
- 74正福寺：道標を兼ねる馬頭観音（寛政12年銘）がある。不動明王を本尊としている。江戸時代には常法談林として教育機関の役割を担い、49の末寺を抱えていた。庭内に天明3年（1783）の浅間山噴火をトリガーとする飢饉が発生した折、自腹をきって難民救済にあたった21名の義人をたたえる義賑窮餓の碑が建立されています
- 75幸手の一里塚の跡：道の左右両側に一里塚があったと言われるが、右の塚の跡のみ確認可能。
- 76幸手城址：田宮城、一色館とも呼ばれていた。土塁、堀などの遺構はすっかり消滅しており、唯一、一色氏の氏神であったとされる稻荷神社境内に解説標識がある。
- 77幸手駅（東武日光線）
- 78栗橋駅（東武日光線、JR宇都宮線）
- 79静御前の墓
- 80関所番士屋敷：加藤、足立、島田、富田の四家が居住。特に足立家は武家屋敷の遺構を良く保っている。
- 81八坂神社：旧島中領の総鎮守。関東三大神輿の一つ荒神輿が夏の大祭で行われる。
- 82房川の舟橋：天保14年、将軍家慶日光社参の際に架設された船橋。社参後、撤去。
- 83栗橋関所跡：寛永元年（1624年）に設けられ、関東郡代伊奈氏の管理するところとなった。明治2年に廃止され、その遺構は全く存在しない。わずかに、本陣跡の西北の堤附裾にある栗橋関所跡の石碑があるのみ。
- 84栗橋宿本陣池田家
- 85栗橋宿脇本陣小林家：「虎屋」と称し脇本陣として繁栄。半土蔵造りの建物が現存。

86吉田家水塚：洪水に備えたもの。土蔵には店の商品や米、味噌などの食料、あるいは寝具や食器などを収納する。家族も避難できるようになっている。利根川の氾濫に脅かされてきた流域住民の苦闘の所産であり、知恵の結晶でもある。

87河岸場跡：江戸時代中頃より利根川舟運に利用された河岸場。昭和初期まで営業。

88福寿院

89顕正寺

90水神社（ミニスーパー堤防）

91常薫寺（日蓮宗）：江戸時代初期には栗橋宿の執務を当寺で施行。

92炮烙地蔵：昔、関所破りは火あぶりの刑。こうした処刑者を憐れんで地元の人が供養のためにまつたといわれる。

93浄信寺

94深廣寺（浄土宗）：元和元年開山。第二代単信上人が六角名号塔を承応3年より宝暦年間にかけて建立。

参考文献 ■

- ・歴史の道調査報告書第二集「日光御成道」埼玉県教育委員会
- ・歴史の道調査報告書第三集「日光道中」埼玉県教育委員会
- ・「近代埼玉の建築探訪」朝日新聞さいたま総局
- ・「百街道一步の日光道中」ホームページ
- ・「関東史跡散歩」ホームページ
- ・「くるりと栗橋」栗橋町

